

学校
×
docomo



学校の時間だけ
じゃ足りない！
児童同士の新たなコミュ
ニケーションを生む、主
体性あふれる学習環境



学校法人森村学園
森村学園初等部

住所：神奈川県横浜市緑区長津田町2695
URL：<http://www.morimura.ed.jp/>

豊かな自然が残る横浜市緑区に広大なキャンパスを構える森村学園初等部。創立100年を超えた伝統ある同校では、「しっかり学び、とことん遊ぶ」を教育理念に掲げ、英語教育や体験を重視した総合学習など特色ある教育活動を実践している。



目的

- 児童の能動的な姿勢を引き出し、変革する時代の中でも「社会に役立つ子どもを育てる」という学園創立者の願いを実現させたい
- 発言の少ない児童や自分に自信の持てない児童からも、「伝えたい思い」と「意欲」を効果的に引き出したい



解決策

- 時間と場所を選ばずに使えるセルラータブレットを導入し、児童が情報を発信したいときにすぐにつながる学習環境を実現する
- タブレットと合わせてクラウド型の授業支援ツールを導入することにより、双方向で協働的な学びを実践する

児童の意見交流や情報発信が活発になる場をめざして

森村学園初等部の榎本昇教諭は、児童の表現力や情報発信を高める学習活動に ICT を活かそうと、受け持ちの5年生のクラスでセルラーモデルのタブレットを活用し始めた。ほかにも同教諭のクラスでは、映像制作コンテストに挑戦するなど創作活動にも積極的に取り組んでいる。



ICTの活用で自己肯定感を高める学習を実践

受け持ちのクラスに活発な発表ができる場をICTで築きたかった、と榎本教諭は打ち明ける。「クラスの子どもたちは、みんなそれぞれの良さを持っているにもかかわらず、なぜか自分に自信の持てない子が多くいました。意見を聞いても手が挙がらず、自分の言ったことを否定されるのが怖いという雰囲気もありました。そうした状況をICTの活用でなんとか変えていきたいと思ったのです」(榎本教諭)。

タブレットを使えば、今まで以上に多様な表現や児童同士の交流が可能になる。子どもたちが活発に意見共有や情報発信できる場を築き、自己肯定感を高めていくような学習の実践をめざしたのだ。

一人1台、グループに1台、それぞれのメリットを活かす



■ 児童の理解度を把握し、教員がフォローできる

榎本教諭は、受け持ちのクラスで整備されたタブレット一人1台の環境を活かし、授業支援システムを用いた意見交流やプレゼンテーションに取り組んだ。

クラス全員の意見を黒板に一覧表示して、発言の少ない児童の意見を取り上げたり、児童が回答に対する自信をカードの色で表現したりするなど、「クラス全員で影響し合えるような場面でタブレットを活用した」と榎本教諭は話す。タブレット一人1台環境では、教員の工夫次第で児童の理解度を把握しフォローできるのがメリットだという。

また、一人1台環境について、単に情報発信や意見の共有がしやすいだけでなく、そもそも児童たちの“伝えたい思い”を喚起することができる。「借りものの言葉ではなく、子どもたちが自分の考えや思いを、自分の言葉で伝える活動ができてきている手応えがあります」と榎本教諭。このような活動を通して、子どもたちの間に“もっと自分を出してもいいんだ”という気づきを与えられたことが一人1台の効果でもあるというのだ。

■ ITリテラシーの異なる児童が協力し合う環境

榎本教諭はこうした学習環境を築く準備段階として、いきなり一人1台で使い始めるのではなく、グループに1台の協働学習から取組んだという。「グループ学習では、得意な子が中心となってタブレット操作を手伝ってくれたり、児童が自分の知っていることについて教え合ったりするなど協力し合う場面が多いです。ITリテラシーの異なる児童が一人1台環境でタブレットを活用していくためにも、グループに1台という形で段階的に進める方が教員の負担も少ないと思います」と榎本教諭は話す。



児童の声「学校の時間だけじゃ足りない」

児童たちはタブレットを活用した学習について、どのような感想を持っているのだろうか。

「分からないことをすぐに調べられるのが良い」「音楽やアニメーションを作るのが楽しい」「タブレットを使うと、簡単に作って友達に見せられるのがいい」「総合の時間で、自分の意見を発表したり、友達の見学を知るのが面白い」と好意的な意見が多く聞かれた。



ほかにも、「学校の時間で足りないときに、家に帰ってから友達と相談できたのがよかった」と話す児童もいた。映像制作に取り組んでいた榎本学級では、一人ひとりに役割分担がされていたが、その作業を進めていくためには学校の時間だけでは足りない。特に脚本を担当していた児童らは、自宅から授業支援ツールの意見交流の機能を用いて、脚本を送り合い打ち合わせをしていたという。

「実は最初、子ども同士で意見交流ができる機能は、どのように使うのか予想できずロックしていました。ところが、子どもたちの方から家に帰ってから相談をしたいから、その機能のロックを外してほしいと要望がありました」と榎本教諭は語る。

児童の主体性に任せることが、教師の予想を超えた学習活動につながる。子どもの意欲を大切に育てる森村学園初等部が築いた、タブレット活用の価値ある姿だといえるだろう。



榎本昇 教諭

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター(☎0120-808-539)
受付時間 平日午前9時～午後6時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ドコモのホームページ 法人のお客さま
教育の場にICTを!

https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/

